

新庁舎に関する有識者からの意見一覧

機能	要約内容
防災機能	●構造等 ・構造体、非構造部材、設備は最も高い耐震安全性のものを採用すべき。 ・免震または制震構造を採用すべき。 ・一般的に免震構造は、敷地を広く取るため、地盤のかさ上げ高さとの調整が必要となる。 ・免震と制震の選択肢があり、各々メリット・デメリットを考慮して選択すべき。 ・駐車場棟の構造体はⅠ類またはⅡ類とし、災害時にも利用する想定とすべき。 ●浸水対策 ・洪水時の浸水高までかさ上げせず、ある程度は浸水することを前提で設計を検討することもひとつの方法。 ・浸水対策としてかさ上げは有効だが、日常のアクセス性やメンテナンスコストを考慮し、バランスを取るべき。 ・浸水対策として、機械類やサーバは浸水高さ以上に配置すべき。 ●災害対策本部等 ・災害本部機能は市民スペースの上階に配置し、市民との接触は避けつつも、状況把握は容易にできるレイアウトが望ましい。議会機能と近接している必要性はそれほど高くないと考える。 ・災害対策本部室は、柔軟な利用が可能で、即座に設置できるレイアウトを推奨。設置型工事となる什器等は不要。 ・災害対策として職員の休憩スペースを確保することは重要。普段は会議室として、災害時は休憩スペースとして活用し、市民が立ち入らない上層階に設置することが望ましい。 ・災害対策本部は平時には会議室などへ転用できるよう考慮すべき。 ●設備等 ・発電機は必須で、72時間以上の連続稼働が可能であるべき。

機能	要約内容
窓口機能	・個別相談ブースは必須であり、オンライン化に伴い対面相談は専門性が高まるため、プライバシーに配慮しつつ、職員の安全も確保できるレイアウトが必要。 ・ワンストップ窓口は有効だが、複数手続きを行う利用者のために、次の窓口へのスムーズな案内が必要。 ・ICT化が進んでも対面の窓口は必要であり、できるだけワンフロアに集約すべき。 ・将来の変化に対応できる柔軟なプランニングと、対応しやすい単純な構造が望ましい。 ・待合スペースを単なる待合ではなく、交流スペースなどと一体化させると良い。交流スペースなどとの一体化により、機能充実と省スペース化が図れる。 ・ワンフロア3,000㎡規模で、見通しが良く開放的な空間を推奨。
執務機能	・オープンスペースやフリーアドレスの導入、必要時には会議室の活用等により執務空間の効率化を図るべき。 ・フリーアドレスは有効だが、実際はグループアドレスになることも多い。什器の追加購入を減らせるメリットがある。 ・Wi-Fiと電源付きの長い机、パーソナルロッカーが必要。手荷物用の個別小型カートも民間事例から有効。 ・場所に囚われず仕事ができるよう、電気・通信・Wi-Fi環境の整備は徹底すべき。技術進歩を見据えた整備が必要。ネットワーク環境は頻繁に更新・対応していくことが重要。 ・可変性のあるレイアウトを導入し、将来の余剰スペースを確保すべき。 ・可変可能なオープンスペースの会議スペースは良いが、音の問題対策として集中ブースや個室会議スペースも併設し、職員が選択できる環境を整えるべき。 ・執務室は職員が働きやすい、働いてみようと思える空間にすることが大事であり、特にワークプレイスとしては休憩スペースなどがある方がよい。きれいな職場であることは、求人にもつながると考えられる。
交流機能	・おしゃれさも重要だが、高齢者にも配慮したデザインで、人が集まるような工夫(屋外広場と屋内の連続性やこどもの遊び場など)により、市役所に用事がなくても気軽に立ち寄れる雰囲気作りが重要。 ・こども向けの機能は低層階に配置すべき。

機能	要約内容
環境機能	・ 今後はZEB READYが標準となる。 ・ 日光を取り込みつつ熱侵入を防ぐため、ルーバーや庇の物理的対策を検討すべき。 ・ Low-E（ローイー）ガラスを窓の標準仕様として検討すべき。 ・ 最新の国の方針を参考に環境対策を検討すべき。
付帯機能	・ 市民利用の付帯機能や交流機能については、市民ワークショップを通じて意見を取り入れるべき。
共通機能	●案内・サイン等 ・ 時代に合わせた案内方法の工夫が必要。 ・ サインは、分かりやすく、おしゃれなものが望ましい。 ・ サインは後付けにならないよう、空間設計・配置計画段階から動線と一体で検討すべき。 ・ 分かりやすい動線計画が重要。 ●トイレ ・ トイレ機能の充実は重要な要素となる可能性がある。 ・ 電動車いす利用者も利用しやすいサイズを検討すべき。 ・ 車椅子利用者向けに、介護者がマッサージなどの手当てができるような大型ベッド付きトイレの設置を検討すべき。 ・ トランスジェンダーの方を考慮したオールジェンダートイレの導入を検討すべきだが、今後のガイドラインや議論の状況を注視する必要がある。 ●その他 ・ 最新のガイドラインとして大阪・関西万博のものを参考にすべき。 ・ 健常者に階段を利用してもらうためには、デザインや利用したくなる工夫が必要。 ・ 庁舎内の点字ブロックは、高齢者等が歩行に支障をきたさないよう、段差などに配慮して検討すべき。 ・ クールダウンスペースの設置を検討すべき。大阪・関西万博、空港、美術館などでの導入事例がある。

機能	要約内容
	・ 交流・付帯・共通機能の基本設計時には、多様な障害を持つ人々の意見をワークショップで取り入れるべき。
交通機能	・ 立体駐車場は屋根があるので、災害時には低層階を活用できるよう検討すべき。 ・ 車寄せを庁舎中央に置かず、市民利用の広場が庁舎前にある配置が望ましい。
特有機能	・ 多機能になりすぎず、シンプルでおしゃれなデザインとした方が良い。
その他	・ 人口減少を考慮し、庁舎機能を縮小する方向性を検討すべき。 ・ 少子化傾向を考慮し、将来的に庁舎機能が縮小する可能性を見据え、余剰スペースの活用法を検討すべき。